



試験会場の様子（東京会場）



森拓生センター長

家電製品協会は、3月3日と6日の2日間、「スマートマスター」、「家電製品アドバイザー」、「家電製品エンジニア」の全国統一試験を実施した。受験者数は2日間合計で約13000名。同協会認定センターの森拓生センター長は、「全国統一試験の受験者数は6回連続で1万人を超え、異業種が家電製品アドバイザー試験を受験するケースも増えた。これにより、18年度の年間受験者は約2万7千人となり、01年の現行制度発足以来過去最多となった」と述べた。

■森拓生センター長の話

現行試験になってから36回目、まる18年が経過しました。今回の試験では、家電製品エンジニア、家電製品アドバイザー、スマートマスターの受験者数は計1万3千人です。合格が一番難しいのは家電製品エンジニア試験です。

年間受験者数が過去最多に

家電製品協会

家電アドバイザー等の全国統一試験

ニア試験で、合格率は30%程度と、民間の認定試験としては厳しい方だと思えます。おかげさまで、認定試験の受験者は18年度は2万7千人となり、01年の現行試験になって以来、過去最多を記録しました。なぜ受験者が伸びているかと言えは、ひとつはスマートマスターの受験者が増えて純増となっていること、もうひとつは家電アドバイザーの受験者が伸びているのです。

これまで、大手家電流通の受験者が主体となつてきました。これに加え、最近では異業種の受験が増えています。

例えば、大手キャリア、電力会社、住宅メーカー、そして電力・ガスなどのエネルギー関連など、いろいろな業界の皆さんが、高い関心をもつて資格取得を目指しています。

方があるとは思いますが、家電単体の販売だけでなく、モノからコトへと消費者の価値観が移行している中で、様々な分野のビジネスで家電の知識が必要になっているということだと思えます。

スマートマスターは、昨年に資格取得者5千人突破の記念の会を開催しましたが、今回の合格者で6千人を超えるの

は確実でしょう。スマートマスターがいてお店・オフィスも、今回1千か所を超えてくると思っています。

スマートマスターについては、家電業界のみならず、住宅、エネルギーの業界と一緒になって、三位一体で進めていかねければならないと思っています。おかげさまで、今回は住宅とエネルギー業界からの受験が増え、家電業界以外の受験が3割を超えました。とりわけ、ZEHビルダー登録をしてZEHビジネスを推進しようという、地方の工務店などからの受験が増えました。

従来の電力会社に加えてガス会社からの受験が伸びていますし、情報通信会社からの受験が増えたのは、IoT、AI、ビッグデータ、そして5Gといった新技術など、ビジネスを推進する上で習得しなければならぬスキルに対する認識が広まってきたことが窺えます。

そういう動きをとらえて、スマートマスターは来年度のテキストを執筆中ですが、カリキュラムの内容も変わっています。従来は、省エネルギー住宅、ZEHに至る新築とリフォーム、リノベーションのノウハウがひとつと、家をインテリジェント化するための家電や住宅機器の使い方という、大きく二つの柱からなっていました。

来年度テキストでは、後者の方をサービスオリエンテッドの方向に変えています。すでに、暮しに対するサポートサービスが登場していますので、どんなサービスがスマートハウスの中で実現されるか、期待されているのか、そういったことを書き下ろしています。

そのサービスを実現するうえで、IoT、AI、クラウドやビッグデータ、ロボティクスと、それらと連携する家電製品の知識がどうコラボレーションしていくのかということ。ハードの話を下流に持ってきているのです。このように、異分野の皆さんにも勉強しやすいカリキュラムとなっていると思います。